

胃がん検診(胃部エックス線検査)の個別医療機関チェックリスト実施状況(令和5年度)

項目		実施率								
		和歌山県全体	和歌山市保健所管内	海南保健所管内	岩出保健所管内	橋本保健所管内	湯浅保健所管内	御坊保健所管内	田辺保健所管内	新宮保健所管内
① 受診者への説明	1-1 要精密検査の場合に、必ず精密検査を受ける必要があることを説明しましたか	96%	93%	100%	100%	80%	100%	100%	100%	100%
	1-2 精密検査の方法を説明しましたか	98%	100%	100%	100%	80%	100%	100%	100%	100%
	1-3 精密検査の結果が市町村や検診機関で共有されることを説明しましたか	92%	80%	100%	100%	80%	100%	100%	100%	100%
	1-4 がん検診の有効性や欠点について説明しましたか <small>偽陰性: 検診で必ずがんが見つかるわけではないこと 偽陽性: がんがなくても検診結果が陽性となる場合があること</small>	92%	87%	100%	100%	80%	100%	100%	86%	100%
	1-5 検診受診の継続が重要であること、症状がある場合は、医療機関の受診が重要であることを説明しましたか	92%	87%	100%	88%	80%	100%	100%	100%	100%
	1-6 胃がんは、日本のがん死亡の上位に位置することを説明しましたか	85%	87%	67%	88%	80%	100%	100%	86%	88%
② 問診、撮影の精度管理	2-1 検診項目は、問診と胃部エックス線検査としましたか	100%	100%	100%	88%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-2 問診は、現在の症状、既往歴、家族歴、過去の受診状況を聴取しましたか	98%	100%	100%	88%	80%	100%	100%	100%	100%
	2-3 問診記録は、5年間は保存していますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-4 胃部エックス線の撮影機器は、日本消化器がん検診学会の定める仕様基準 [*] を満たしていますか	98%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	88%
	2-5 撮影枚数は最低8枚としていますか	94%	100%	67%	100%	100%	100%	100%	100%	88%
	2-6 撮影の体位及び方法は日本消化器がん検診学会の基準 [*] としていますか	98%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	88%
	2-7 造影剤の濃度を適切(180~220W/V%の高濃度バリウム、120~150ml)に保ち、副作用等の事故に注意しましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-8 撮影に携わった技師は、日本消化器がん検診学会が認定する胃がん検診専門技師の資格を取得していましたか	47%	13%	33%	63%	100%	100%	33%	57%	75%
	2-9 自治体等から求められた場合、撮影に携わった技師と日本消化器がん検診学会認定技師数を報告できますか	74%	60%	83%	75%	100%	100%	67%	100%	63%
③ 読影の精度管理	3-1 自治体等から求められた場合、読影医数と日本消化器がん検診学会認定医や総合認定医数を報告できますか	89%	80%	83%	100%	100%	100%	100%	100%	75%
	3-2 読影は二重読影とし、原則として判定医の一人は日本消化器がん検診学会認定医もしくは総合認定医でしたか	64%	73%	67%	75%	80%	0%	67%	57%	38%
	3-3 必要に応じて比較読影していますか	96%	100%	83%	88%	100%	100%	100%	100%	100%
	3-4 撮影画像は5年間は保存していますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	3-5 検診結果は5年間は保存していますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

項目		実施率									
		和歌山県全体	和歌山市保健所管内	海南保健所管内	岩出保健所管内	橋本保健所管内	湯浅保健所管内	御坊保健所管内	田辺保健所管内	新宮保健所管内	
④システムとしての精度管理	4-1	受診者への結果通知、またはそのための市町村への結果報告は、遅くとも検診受診後4週間以内にしましたか	98%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	86%	100%
	4-2	がん検診の結果は、市町村から求められた項目を全て報告しましたか	98%	100%	100%	88%	100%	100%	100%	100%	100%
	4-3	精密検査方法及び精密検査結果について、市町村から求められた項目の積極的な把握に努めましたか	98%	100%	100%	88%	100%	100%	100%	100%	100%
	4-4	撮影や読影向上のために説明会や研修会に参加しましたか	81%	87%	50%	75%	100%	100%	67%	100%	75%
	4-5	自施設の検診結果について、要精検率・精検受診率・がん発見率等のプロセス指標を把握しましたか	68%	60%	50%	88%	100%	100%	67%	71%	50%
	4-6	チェックリストやプロセス指標に基づいて、自施設の改善を検討していますか あるいは、県や市町村から指導・助言があった場合は改善に努めましたか	92%	87%	100%	100%	100%	100%	67%	100%	88%

※胃部エックス線撮影法及び撮影機器の基準は、
日本消化器がん検診学会発行「新・胃X線撮影法ガイドライン改訂版(2011)」を参照

胃がん検診(胃内視鏡検査)の個別医療機関チェックリスト実施状況(令和5年度)

項目		実施率									
		和歌山県全体	和歌山市保健所管内	海南保健所管内	岩出保健所管内	橋本保健所管内	湯浅保健所管内	御坊保健所管内	田辺保健所管内	新宮保健所管内	
① 受診者への説明	1-1	要精密検査の場合に、必ず精密検査を受ける必要があることを説明しましたか	98%	98%	100%	100%	91%	100%	100%	92%	100%
	1-2	精密検査の方法を説明しましたか	99%	98%	100%	100%	91%	100%	100%	100%	100%
	1-3	精密検査の結果が市町村や検診機関で共有されることを説明しましたか	91%	87%	100%	95%	91%	86%	91%	92%	91%
	1-4	がん検診の有効性や欠点について説明しましたか <small>偽陰性: 検診で必ずがんが見つかるわけではないこと 偽陽性: がんがなくても検診結果が陽性となる場合があること</small>	91%	94%	100%	95%	91%	79%	100%	69%	91%
	1-5	検診受診の継続が重要であること、症状がある場合は、医療機関の受診が重要であることを説明しましたか	99%	98%	100%	100%	91%	100%	100%	100%	100%
	1-6	胃がんは、日本のがん死亡の上位に位置することを説明しましたか	85%	89%	80%	80%	91%	71%	100%	85%	82%
② 問診、検査の精度管理	2-1	検診項目は、問診と胃内視鏡検査としましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-2	問診は、現在の症状、既往歴、家族歴、過去の受診状況を聴取しましたか	99%	98%	100%	95%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-3	問診記録は、5年間は保存していますか	99%	100%	100%	100%	100%	100%	91%	92%	100%
	2-4	機器や検査医の条件は、日本消化器がん検診学会の「胃内視鏡検診マニュアル [*] 」を参考にしましたか	94%	96%	80%	95%	100%	93%	100%	92%	91%
③ 読影の精度管理	3-1	読影は、日本消化器がん検診学会の「胃内視鏡検診マニュアル [*] 」を参考にしましたか	96%	96%	93%	95%	100%	100%	100%	85%	100%
	3-2	検査医以外の医師がダブルチェックを行いましたか	96%	98%	93%	100%	91%	100%	100%	85%	91%
	3-3	ダブルチェックを行った医師は以下のいずれかの条件を満たしていますか ・日本消化器がん検診学会認定医もしくは総合認定医 ・日本消化器内視鏡学会専門医 ・胃内視鏡運営委員会が認めた医師	87%	98%	80%	95%	82%	71%	91%	77%	64%
	3-4	撮影画像は5年間は保存していますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	3-5	検診結果は5年間は保存していますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
④ システムとしての精度管理	4-1	受診者への結果通知、またはそのための市町村への結果報告は、遅くとも検診受診後4週間以内になりましたか	98%	98%	100%	100%	100%	100%	100%	85%	100%
	4-2	がん検診の結果等は、市町村から求められた項目を全て報告しましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	4-3	精密検査方法及び精密検査結果について、市町村から求められた項目の積極的な把握に努めましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	4-4	撮影や読影向上のために説明会や研修会に参加しましたか	91%	94%	80%	85%	100%	93%	100%	85%	91%
	4-5	自施設の検診結果について、要精検率・精検受診率・がん発見率等のプロセス指標を把握しましたか	75%	81%	47%	85%	100%	79%	91%	54%	45%
	4-6	チェックリストやプロセス指標に基づいて、自施設の改善を検討していますか あるいは、県や市町村から指導・助言があった場合は改善に努めましたか	94%	100%	93%	95%	91%	86%	91%	92%	82%

※日本消化器がん検診学会発行「対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル」(2017年度発行)を参照

肺がん検診の個別医療機関チェックリスト実施状況（令和5年度）

項目		実施率								
		和歌山県全体	和歌山市保健所管内	海南保健所管内	岩出保健所管内	橋本保健所管内	湯浅保健所管内	御坊保健所管内	田辺保健所管内	新宮保健所管内
① 受診者への説明	1-1 要精密検査の場合に、必ず精密検査を受ける必要があることを説明しましたか	99%	99%	100%	100%	93%	100%	100%	100%	100%
	1-2 精密検査の方法を説明しましたか	96%	97%	100%	100%	87%	100%	100%	100%	86%
	1-3 精密検査の結果が市町村や検診機関で共有されることを説明しましたか	90%	88%	100%	100%	80%	90%	100%	100%	86%
	1-4 がん検診の有効性や欠点について説明しましたか <small>偽陰性: 検診で必ずがんが見つかるわけではないこと 偽陽性: がんがなくても検診結果が陽性となる場合があること</small>	95%	97%	95%	100%	93%	90%	100%	90%	93%
	1-5 検診受診の継続が重要であること、症状がある場合は、医療機関の受診が重要であることを説明しましたか	98%	99%	95%	100%	93%	100%	100%	100%	100%
	1-6 肺がんは、日本のがん死亡の上位に位置することを説明しましたか	86%	86%	86%	100%	80%	100%	100%	80%	86%
	1-7 禁煙及び防煙指導など、肺がんに関する正しい知識の普及啓発を行いましたか	89%	90%	81%	100%	87%	90%	100%	90%	79%
② 質問、胸部X線撮影の精度管理	2-1 検診項目は、質問と胸部エックス線検査としましたか 50歳以上で喫煙指数が600以上だった者への喀痰細胞診としましたか	90%	88%	95%	100%	93%	100%	100%	80%	91%
	2-2 質問は、喫煙歴、妊娠の可能性の有無、過去の受診状況を聴取しましたか 血痰など自覚症状がある場合は、検診でなく専門機関への受診を勧めましたか	97%	96%	100%	100%	100%	100%	100%	90%	100%
	2-3 質問記録は、5年間は保存していますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-4 放射線科医または肺癌診療に携わる医師による胸部エックス線の画質の評価とそれに基づく指導を行いましたか ^{※1}	91%	90%	95%	100%	80%	100%	100%	90%	86%
	2-5 日本肺癌学会が定める、検診としての適切な機器・方法で撮影しましたか ^{※2}	98%	98%	100%	96%	100%	100%	100%	100%	93%
	2-6 検診に必要な機器や設備を整備し、日常点検の管理体制を整えていますか	98%	97%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-7 検診に従事する放射線技師が必要な教育・研修を受ける期間を確保していますか	90%	89%	100%	100%	78%	100%	100%	86%	100%
③ 胸部X線読影の精度管理	3-1 読影は、2名以上の医師によって読影し、うち一人は肺癌診療に携わる医師もしくは放射線科の医師ですか	96%	95%	95%	100%	100%	80%	100%	100%	100%
	3-2 どちらかの医師が「要比較読影」とした場合、比較読影しましたか	98%	97%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	3-3 比較読影は以下のいずれかの方法で行いましたか ・読影委員会を設置して読影する ・二重読影を行った医師がそれぞれ読影する	95%	92%	95%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	3-4 モニタ読影の場合、機器は日本肺癌学会が定めた基準に従いましたか ^{※2} モニタ読影をしていない場合は回答欄に「-」を記入してください	96%	95%	100%	91%	93%	100%	100%	100%	92%
	3-5 読影の判定は「肺癌取扱い規約」の肺がん検診の手引きによって行いましたか	99%	99%	100%	91%	100%	100%	100%	100%	100%
	3-6 撮影画像は5年間は保存していますか	100%	100%	100%	96%	100%	100%	100%	100%	100%

項目		実施率									
		和歌山県全体	和歌山市保健所管内	海南保健所管内	岩出保健所管内	橋本保健所管内	湯浅保健所管内	御坊保健所管内	田辺保健所管内	新宮保健所管内	
	3-7	検診結果は5年間は保存していますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
④ 喀痰細胞診の精度管理	4-1	細胞診の業務委託をしている場合は、その委託機関名を市町村に報告できますか	83%	73%	90%	100%	73%	100%	100%	70%	86%
	4-2	採取した喀痰は、2枚以上のスライドに塗抹し、湿固定の上、パパニコロウ染色を行いましたか	85%	76%	80%	100%	93%	100%	100%	80%	86%
	4-3	固定標本の顕微鏡検査は、(公社)日本臨床細胞学会認定の細胞診専門医と細胞検査士が連携して行いましたか ^{※3}	86%	73%	90%	100%	100%	100%	100%	80%	86%
	4-4	同一検体から作成された2枚以上のスライドは、2名以上の技師によりスクリーニングしましたか	82%	73%	75%	100%	100%	80%	100%	40%	71%
	4-5	がん発見例は、過去の細胞所見の見直しを行いましたか	80%	71%	70%	96%	100%	90%	100%	70%	71%
	4-6	標本は5年間は保存していますか	88%	81%	81%	100%	100%	100%	100%	80%	86%
	4-7	検診結果は5年間は保存していますか	90%	81%	95%	100%	100%	100%	100%	80%	86%
⑤ システムとしての精度管理	5-1	受診者への結果通知、またはそのための市町村への結果報告は、遅くとも検診受診後4週間以内にしましたか	97%	96%	100%	100%	100%	100%	100%	90%	100%
	5-2	がん検診の結果等は、市町村から求められた項目を全て報告しましたか	99%	99%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	5-3	精密検査方法及び精密検査結果について、市町村から求められた項目の積極的な把握に努めましたか	99%	99%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	5-4	検診に従事する医師に「肺がん検診に関する症例検討会や読影講習会」を年に1回以上開催、もしくは、他施設や都道府県単位、あるいは日本肺がん学会等が主催する胸部画像の読影に関するセミナー・講習会を年1回以上受講して	80%	83%	62%	91%	87%	80%	100%	100%	50%
	5-5	内部精度管理として、検診実施体制や検診結果の把握・集計・分析のための委員会(自施設以外の専門家を交えた会)を年に1回以上開催しているか。	96%	96%	95%	91%	100%	100%	100%	100%	100%
	5-6	自施設の検診結果について、要精検率・精検受診率・がん発見率等のプロセス指標を把握しましたか	78%	76%	71%	96%	73%	90%	100%	60%	79%
	5-7	チェックリストやプロセス指標に基づいて、自施設の改善を検討していますか あるいは、県や市町村から指導・助言があった場合は改善に努めましたか	87%	84%	86%	100%	93%	80%	100%	90%	93%

大腸がん検診の個別医療機関チェックリスト実施状況（令和5年度）

項目		実施率									
		和歌山県全体	和歌山市保健所管内	海南保健所管内	岩出保健所管内	橋本保健所管内	湯浅保健所管内	御坊保健所管内	田辺保健所管内	新宮保健所管内	
① 受診者への説明	1-1	要精密検査の場合に、必ず精密検査を受ける必要があることを説明しましたか	99%	99%	100%	97%	96%	100%	100%	100%	100%
	1-2	精密検査の方法を説明しましたか (第一選択は全大腸内視鏡検査、困難な場合はS状結腸内視鏡検査と注腸X線検査の併用)	98%	99%	100%	97%	92%	100%	100%	94%	100%
	1-3	精密検査の結果が市町村や検診機関で共有されることを説明しましたか	91%	91%	100%	90%	79%	100%	89%	94%	84%
	1-4	がん検診の有効性や欠点について説明しましたか <small>偽陰性: 検診で必ずがんが見つかるわけではないこと 偽陽性: がんがなくても検診結果が陽性となる場合があること</small>	96%	97%	100%	94%	88%	92%	100%	97%	89%
	1-5	検診受診の継続が重要であること、症状がある場合は、医療機関の受診が重要であることを説明しましたか	97%	98%	100%	97%	88%	92%	100%	97%	100%
	1-6	大腸がんは、日本のがん死亡の上位に位置することを説明しましたか	85%	84%	100%	87%	79%	85%	95%	74%	89%
② 検査の精度管理	2-1	検査は、免疫便潜血検査2日法を行いましたか	100%	100%	100%	97%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-2	便潜血検査のキット名、測定方法、カットオフ値を市町村に報告できますか	92%	93%	92%	90%	79%	92%	100%	100%	84%
	2-3	大腸がん検診マニュアルに記載された方法に準拠して行いましたか	100%	100%	100%	97%	100%	100%	100%	100%	100%
③ 検体の取り扱い	3-1	採便方法についてチラシ等で受診者に説明しましたか	98%	99%	100%	97%	100%	92%	95%	97%	95%
	3-2	採便後即日(2日目)回収を原則としましたか	98%	98%	100%	97%	100%	100%	100%	97%	95%
	3-3	検体を冷蔵庫あるいは冷所に保存するように受診者に指導しましたか	98%	98%	100%	97%	96%	100%	100%	94%	100%
	3-4	受診者から回収した検体を自施設で検査又は検査施設へ渡すまでの間、冷蔵保存しましたか	89%	92%	83%	94%	88%	77%	79%	88%	89%
	3-5	検査施設では検体を受領後冷蔵保存しましたか	96%	97%	92%	97%	96%	77%	100%	94%	100%
	3-6	検体回収後原則として24時間以内に測定しましたか	97%	98%	96%	94%	96%	100%	100%	100%	95%
	3-7	検診結果は5年間保存していますか	100%	100%	100%	97%	100%	100%	100%	100%	100%
④ システムとしての精度管理	4-1	受診者への結果通知、またはそのための市町村への結果報告は、遅くとも検診受診後2週間以内にしましたか	96%	97%	100%	94%	100%	100%	79%	94%	100%
	4-2	がん検診の結果等は、市町村から求められた項目を全て報告しましたか	100%	100%	100%	97%	100%	100%	100%	100%	100%
	4-3	精密検査方法及び精密検査結果について、市町村から求められた項目の積極的な把握に努めましたか	97%	99%	96%	97%	100%	92%	89%	94%	100%
	4-4	自施設の検診結果について、要精検率・精検受診率・がん発見率等のプロセス指標を把握しましたか	75%	74%	71%	84%	75%	77%	79%	71%	68%
	4-5	チェックリストやプロセス指標に基づいて、自施設の改善を検討していますか あるいは、県や市町村から指導・助言があった場合は改善に努めましたか	91%	90%	96%	97%	96%	85%	79%	91%	84%

子宮頸がん検診の個別医療機関チェックリスト実施状況（令和5年度）

項目		実施率								
		和歌山県全体	和歌山市保健所管内	海南保健所管内	岩出保健所管内	橋本保健所管内	湯浅保健所管内	御坊保健所管内	田辺保健所管内	新宮保健所管内
① 受診者への説明	1-1 要精密検査の場合に、必ず精密検査を受ける必要があることを説明しましたか	97%	100%	100%	50%	100%	100%	100%	100%	100%
	1-2 精密検査の方法を説明しましたか	91%	93%	75%	50%	100%	100%	100%	100%	100%
	1-3 精密検査の結果が市町村や検診機関で共有されることを説明しましたか	83%	71%	100%	50%	100%	100%	100%	67%	100%
	1-4 がん検診の有効性や欠点について説明しましたか <small>偽陰性：検診で必ずがんが見つかるわけではないこと 偽陽性：がんがなくても検診結果が陽性となる場合があること</small>	83%	86%	75%	0%	100%	100%	100%	67%	100%
	1-5 検診受診の継続が重要であること、症状がある場合は、医療機関の受診が重要であることを説明しましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	1-6 子宮頸がんの罹患は、日本の女性のがんの中で比較的多く、近年増加傾向にあることを説明しましたか	77%	71%	50%	50%	100%	100%	100%	67%	100%
② 検診機関での精度管理	2-1 検査項目は、医師による細胞診のほか、問診、視診を行いましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-2 細胞診の方法（従来法・液状検体法）、採取器具について、市町村に報告できますか	91%	93%	75%	50%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-3 細胞診は、直視下に子宮頸部及び陰部表面の全面擦過により細胞を採取し、迅速に処理しましたか	97%	100%	100%	50%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-4 細胞診の判定を業務委託をする場合は、その外部委託機関を市町村に報告できますか	89%	79%	100%	50%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-5 検体不適正となった場合、貴施設で再度検体採取を行うようにしていますか	97%	100%	100%	50%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-6 検体不適正となった場合、貴施設で原因の検討や対策を講じる体制はありますか	94%	93%	100%	100%	100%	100%	67%	100%	100%
	2-7 検診結果は5年間は保存していますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-8 問診は、妊娠及び分娩歴、月経の状況、不正性器出血等の症状の有無、過去の受診状況を聴取しましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-9 問診の上、症状がある者には、適切な医療機関への受診勧奨を行いましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-10 問診記録は、5年間は保存していますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-11 視診は陰鏡を挿入し、子宮頸部の状況を観察しましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
③ 細胞診判定施設での精度管理	3-1 細胞診判定施設は、(公社)日本臨床細胞学会の施設認定を受けていますか もしくは、(公社)日本臨床細胞学会認定の細胞診専門医と細胞検査士が連携して検査をおこないましたか ^{※1}	97%	100%	100%	50%	100%	100%	100%	100%	100%
	3-2 細胞診陰性の検体は、その10%以上について再スクリーニングしましたか ^{※1} または再スクリーニング施行率を報告しましたか	77%	57%	100%	50%	100%	100%	67%	100%	100%
	3-3 細胞診結果の報告は、ベセスダシステム ^{※2} を用いましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	3-4 全ての標本の状態について、ベセスダシステムの基準に基づいて適正・不適正のいずれかに分類し、細胞診結果に明記しましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	3-5 がん発見例は、過去の細胞所見の見直しを行いましたか	97%	100%	100%	50%	100%	100%	100%	100%	100%
	3-6 標本は5年間は保存していますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

項目		実施率									
		和歌山県全体	和歌山市保健所管内	海南保健所管内	岩出保健所管内	橋本保健所管内	湯浅保健所管内	御坊保健所管内	田辺保健所管内	新宮保健所管内	
④ システムとしての精度管理	4-1	受診者への結果通知、またはそのための市町村への結果報告は、遅くとも検診受診後4週間以内になりましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
	4-2	がん検診の結果等は、市町村から求められた項目を全て報告しましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
	4-3	精密検査方法及び精密検査結果について、市町村から求められた項目の積極的な把握に努めましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
	4-4	診断や判定の向上のために説明会や研修会に参加しましたか	77%	71%	25%	50%	100%	100%	100%	100%	
	4-5	自施設の検診結果について、要精検率・精検受診率・がん発見率等のプロセス指標を把握しましたか	66%	64%	50%	50%	50%	100%	67%	67%	100%
	4-6	チェックリストやプロセス指標に基づいて、自施設の改善を検討していますかあるいは、県や市町村から指導・助言があった場合は改善に努めましたか	86%	79%	100%	50%	75%	100%	100%	100%	100%

※1 公益社団法人日本臨床細胞学会 細胞診精度管理ガイドライン参照

※2 ベセスダシステムによる分類:The Bethesda System for Reporting Cervical Cytology second edition及びベセスダシステム2001アトラス参照

乳がん検診の個別医療機関チェックリスト実施状況（令和5年度）

項目		実施率								
		和歌山県全体	和歌山市保健所管内	海南保健所管内	岩出保健所管内	橋本保健所管内	湯浅保健所管内	御坊保健所管内	田辺保健所管内	新宮保健所管内
① 受診者への説明	1-1 要精密検査の場合に、必ず精密検査を受ける必要があることを説明しましたか	96%	100%	100%	100%	50%	100%	100%	100%	100%
	1-2 精密検査の方法を説明しましたか	96%	100%	100%	100%	50%	100%	100%	100%	100%
	1-3 精密検査の結果が市町村や検診機関で共有されることを説明しましたか	96%	100%	100%	100%	50%	100%	100%	100%	100%
	1-4 がん検診の有効性や欠点について説明しましたか <small>偽陰性: 検診で必ずがんが見つかるわけではないこと 偽陽性: がんがなくても検診結果が陽性となる場合があること</small>	96%	100%	100%	100%	50%	100%	100%	100%	100%
	1-5 検診受診の継続が重要であること、症状がある場合は、医療機関の受診が重要であることを説明しましたか	96%	100%	100%	100%	50%	100%	100%	100%	100%
	1-6 乳がんは、日本の女性のがん死亡の上位に位置することを説明しましたか	88%	100%	50%	50%	50%	100%	100%	100%	100%
② 問診、撮影の精度管理	2-1 検診項目は、問診と乳房エックス線検査(マンモグラフィ)としましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-2 問診記録は5年間は保存していますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-3 問診は、現在の症状、月経及び妊娠に関する事項、既往歴、家族歴、過去の受診状況を聴取しましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-4 撮影装置の種類は、日本医学放射線学会の定める仕様基準 ^{※1} を満たしていますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-5 両側乳房の内外斜位方向撮影を行っていますか 40～50歳未満の受診者には、内外斜位方向と頭尾方向の撮影をしましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-6 線量及び写真の画質について、日本乳がん検診精度管理中央機構の行う施設画像評価を受け、AまたはBの評価を受けていますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-7 撮影技師や医師は、乳房X線撮影、読影及び精度管理に関する基本講習プログラムに準じた講習会 ^{※2} の評価試験で、AまたはBの評価を受けていますか	96%	100%	100%	50%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-8 撮影技師や医師は乳房X線撮影、読影及び精度管理に関する基本講習プログラムに準じた講習会の評価試験でAまたはBの評価をうけていますか。	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	2-9 検診の従事する診療放射線技師が必要な教育・研修を受ける機会を確保していますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
③ 読影の精度管理	3-1 読影は二重読影を行い、うち一人は乳房エックス線写真読影に関する適切な講習会 ^{※2} の評価試験でA又はBの評価を受けていますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	3-2 二重読影の所見に応じて、比較読影しましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	3-3 撮影画像は5年間は保存していますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	3-4 検診結果は5年間は保存していますか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
④ システムとしての精度管理	4-1 受診者への結果通知、またはそのための市町村への結果報告は、遅くとも検診受診後4週間以内にしましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	4-2 がん検診の結果等は、市町村から求められた項目を全て報告しましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	4-3 精密検査方法及び精密検査結果について、市町村から求められた項目の積極的な把握に努めましたか	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	4-4 撮影や読影向上のために説明会や研修会に参加しましたか	84%	100%	100%	50%	100%	100%	33%	100%	0%
	4-5 自施設の検診結果について、要精検率・精検受診率・がん発見率等のプロセス指標を把握しましたか	60%	80%	0%	50%	100%	100%	33%	50%	0%
	4-6 チェックリストやプロセス指標に基づいて、自施設の改善を検討していますか あるいは、県や市町村から指導・助言があった場合は改善に努めましたか	72%	90%	0%	50%	100%	100%	33%	100%	0%